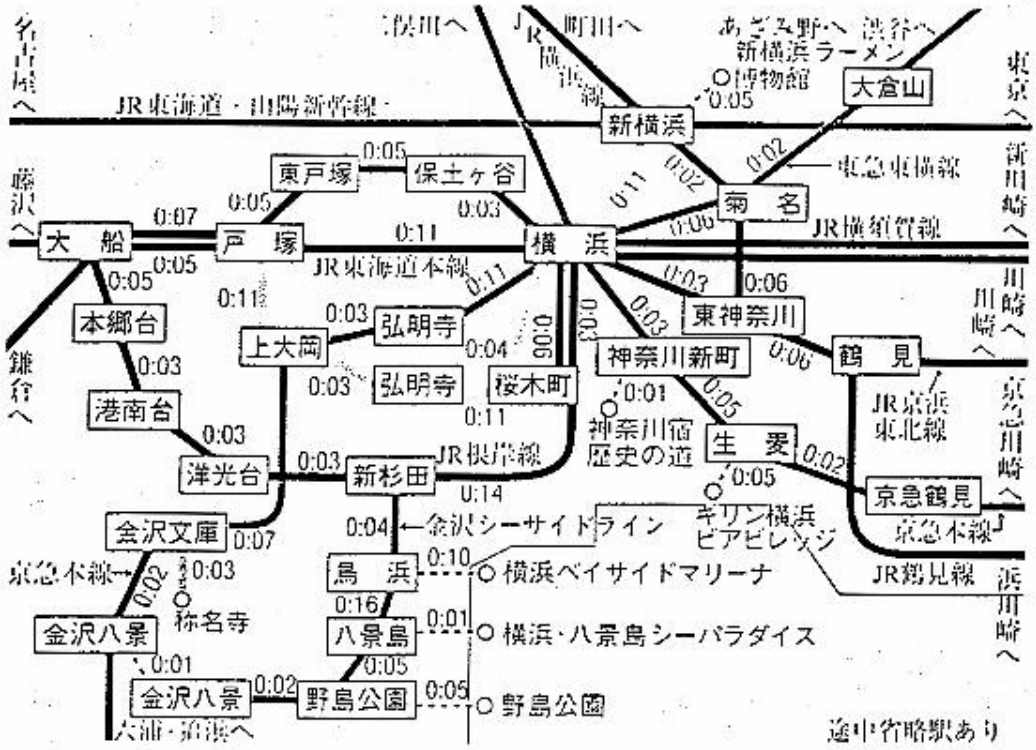
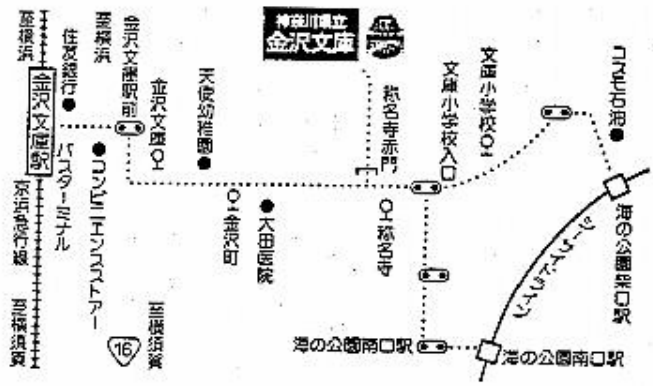
平成11年7月25日（日）

第二六八回　史跡めぐり資料

称名寺　金沢文庫　シーパラダイス

越谷市郷土研究会





第２６８回　史跡めぐり＜称名寺　金沢文庫　シーパラダイス＞

と　き　平成１１年７月２５日（日）

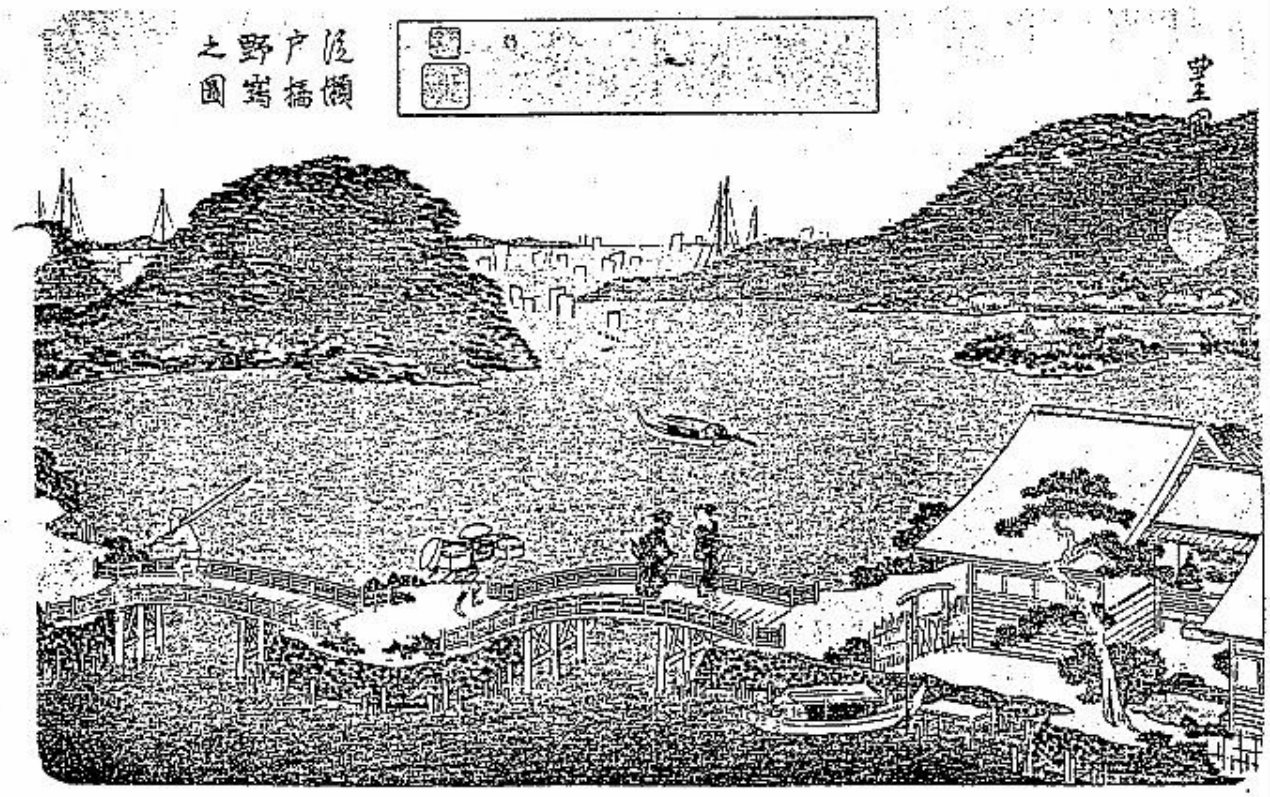
集　合　東武線・越谷駅東口　７時４５分

コース　８：００越谷駅発＝８：３６浅草駅着…８：５０都営浅草駅発＝９：５４金沢文庫駅着…１０：１５称名寺着・金沢文庫（博物館見学）◇１１：５０同発…１２：０８海の公園南口発＝１２：１１八景島駅着…１２：３０シーパラダイス着…＜食事＞…１３：３０海の動物たちのショー…アクアミュージアム（水族館）見学◇１５：３０同発…八景島駅＝ＪＲ新杉田駅…１５：５０京浜急行杉田駅＝都営浅草駅…浅草駅＝越谷駅（１８：１０頃）　解散

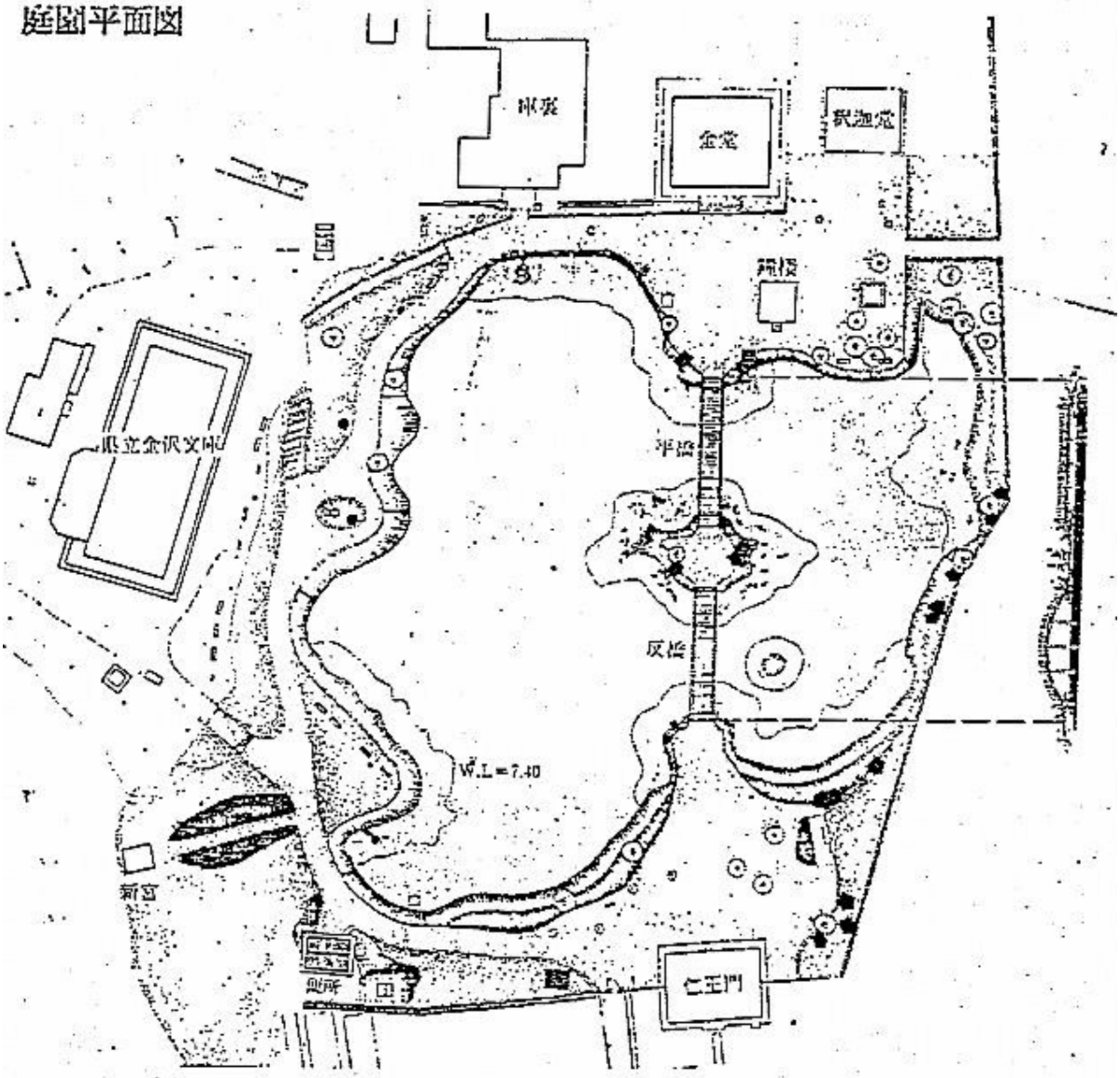
参加費　６，０００円（交通費・入場料など）

案内者　幹事・宮川進

5　瀬戸橋造営棟別銭注文案〔金5249/14〕



庭園平面図



石立僧

石を立てるというのは庭づくりを指す平安時代の言葉である。その意味で、僧侶ではあるが作庭に通じ、各所に招かれて専門的に造園にたずさわった人々をいう。平安・鎌倉時代には多くの石立僧の名が伝わっている。

浄土庭園

仏教の浄土思想の影響を受け、寺院の主要建築である金堂や阿弥陀堂などの前面に大きい池を開き、ハスを植えるなどして、浄土的な荘厳を意図した庭園をいう。即ち仏像・建築・庭園を総合して現世に浄土を再現しようとしたもので、すでに奈良時代にそのきざしが見られるが、ことに末法時（釈迦入滅後2000年を過ぎると教のみあって救われようのない末法の時代に入るという思想で、平等院阿弥陀堂（鳳凰堂）の建立に着手した1052年が末法時代の第1年目に当たるとされた）を免れられないと感じた藤原貴族たちは金堂や阿弥陀堂の建立に救いを求め、庭園に善美を尽くして、極楽浄土を目のあたりにしたいと試みた。毛越寺や称名寺庭園にみられる地割は、浄土曼荼羅の構図を庭園に移した構成と解釈されているが、平等院や浄瑠璃寺庭園のように正面から阿弥陀堂へ渡る橋のないものもあり、その形態はさまざまである。ちなみに浄土式庭園という用語は比較的新しい術語で、一般化したのは戦後であり、今日では浄土庭園という呼称が広く用いられるようになってきている。

しょうみょうじ　称名寺　横浜市金沢区金沢町にある寺。金沢山称名寺と号す。真言律宗、別格本山。西大寺末。本尊弥勒菩薩（重要文化財）。金沢（かねさわ）北条氏一門の菩提寺で、

称名寺山門

建創の時期を明らかにしないが、金沢氏の祖、北条実時が六浦荘金沢の居館内に営んだ持仏堂から発したと推定されている。建暦二年（一二一二）実時の堂庵において、仏法講演の儀式がとり行われた。これは、多分、現在実時の持仏と伝えられる阿弥陀三尊を安置した持仏堂で行われたのであろう。この持仏堂は、文応元年（一二六〇）実時亡母七回忌ころまでには念仏の寺として独立していたらしく、弘長二年（一二六二）西大寺叡尊が鎌倉に下向した際の「関東往還記」には、称名寺と号し、別当を置く不断念仏の寺であると記している。実時は叡尊に深く帰依し、文永四年（一二六七）下野薬師寺から妙性房審海を開山として迎え、寺を真言律宗に改めた。建治二年（一二七六）弥勒菩薩立像造立、弘安七年（一二八四）「称名寺規式」が制定され、ここに称名寺の基礎が定まった。実時の子顕時の時代には、弥勒堂・護頂堂・三重塔などが建立され発展の一途をたどった。文保元年（一三一七）、当時、鎌倉幕府の連署の地位にあった第三代の執権貞顕は、称名寺二代長老明忍房釈阿と力を併せ、無縁の再建営を行い、元亨三年（一三二三）には、宛池を中心として、弥勒来迎堂に荘厳された金堂をはじめ、講堂・仁王門など、七堂伽藍を備えた壮麗な浄土曼荼羅にもとづく寺観を呈するに至った。その有様は、「称名寺絵図並結界記」（重要文化財）によりうかがうことができる。このようにして寺容が整うとともに、寺院の活動も、審海のあとをうけて、二代釈阿、三代淑谷と学匠が相つぎ、寺内においてはしばしば講座が開かれ、金沢学校といわれるほどであった。また、寺領も実時以来、金沢氏一門による寄進が行われ、全国的に散在したが、寺領のほかに、顕時の時代から「寺用」と称する制度を定め、金沢一門の所領から米銭を収納し、寺院経営の費用にあてた。しかし、元弘三年（一三三三）金沢北条氏の滅亡とともに寺運は傾き、室町時代にはまだかなりの規模を維持していたが、江戸時代に入ると大きく衰退し、創建当時の堂塔の姿を失った。大正十一年（一九二二）称名寺境内は国指定の史蹟となったが、昭和四十七年（一九七二）、寺域背後の丘陵が、大きな宅地開発の影響をうけたので、歴史的景観の保持のため追加指定が行われた。これを契機として、同五十三年から「称名寺絵図」にもとづき浄土式庭園の復元工事が実施され、貞顕時代に作庭された往時の宛池の姿がつぎつぎと発見された。なお、境内には実時廟所、顕時・貞顕墓所、称名寺歴代塔が存する。所蔵文化財は、金堂・仁王門などの安置分を除き、大半は神奈川県立金沢文庫に寄託保管・展示されている。そのうち国・県の指定文化財は、国宝「北条実時像」「文選集注」、国重要文化財「清源寺式条廻如来・青磁壺」、県重要文化財「三十仏図」など三十三件百十九点に達し、武家文化の粋を集めたものとして注目されている。

1 金沢文庫（かねさわぶんこ）

［参考文献］『金沢文庫編』『金沢文庫古文書』、『神奈川県史』資料編一・三上、関靖『金沢文庫の研究』、舟越康寿『金沢称名寺々領の研究』、『横浜市立大学紀要』B四・五合併号、同『称名寺々領の研究編』（同・八）、同『金沢称名寺々領の研究（続）』（同・

三田　元重

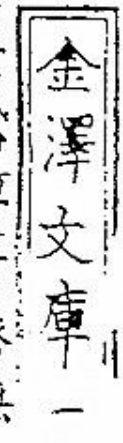
かねざわぶんこ　金沢文庫　北条実時が、武蔵国久良郡六浦荘金沢村（横浜市金沢区金沢町）に建てたという文庫。実時は義時の孫で、はやくより幕府の要職をつとめたが、もとより読書好学の人で、そのころ京都から鎌倉に招かれてきていた清原教隆と交際し、いろいろの指導をうけた。彼は多年にわたり和漢の書物を集め、みずから書写点校にもつとめて学問にはげんだが、こうした多くの集書は、鎌倉の邸宅で、二回にわたり類焼の厄にあうということがあった。そこで実時は、鎌倉の地をはなれた金沢の地に別邸をたてたのを機会に、大切な書物をここに移したものと思われる。正嘉二年（一二五八）には、「於二武蔵国倉城郡六連庄内金沢村一、点二越后守平実時堂廊一伝レ之」（「伝法灌頂雑要抄」）とみえているので、このころすでに金沢別業ができていたとみてよい。この別邸は、持仏の名により称名寺の阿弥陀院となるが、元亨三年（一三二三）の「称名寺伽藍古図」によると、後年まで京風の寝殿造屋形で、実時以後も、ずっと別業として使用されたようである。ところでこの文庫が、いつできたかというと、これには史料の明証がない。おそらく実時は、建治元年（一二七五）に公職をしりぞいてこの別邸に移り、その後もみずから書写点校の筆をとっていたので、次第に書物を中心とする文物が充実し、いつのまにか世に、「金沢の北条の殿の御文庫」といわれるようになったのであろう。

なお当時の文庫は、この別邸とは少し離れ、小さなトンネルをぬけた西側（いま県立社会教育会館がある）にあったという。このあたりを、文禄三年（一五九四）の『称名寺領田畠帳』では、小名「ふんこ」といい、宝永二年（一七〇五）の『金沢称名寺水帳』では「ぶんこ入」の名もみえ、今日なお、土地の人は、御所ヶ谷（ごしょがやつ）・文庫ヶ谷（ぶんこがやつ）と呼んでいる。またかつて、ここから布目の瓦が出土したこともあるというから、ここに北条氏の別の邸宅や文庫があったのではないかという説が有力になった。また実時は、のちこの別業を中心として寺院に発展させ、文永四年（一二六七）には、称名寺開山として、妙性房審海を招いた。これは先年、彼が西大寺叡尊の東下に大いに尽力した結果、その影響によって生まれた真言律宗の寺である。実時は、建治二年の十月、五十三歳で、ここで亡くなった。金沢文庫は、実時ばかりでなく、その子の顕時、孫の貞顕、そして貞顕の子貞将へと引きつがれ、金沢氏四代にわたりよく経営された。なかでも貞顕がいちばん傑出しており、六波羅の探題をつとめて十三年も在洛し、鎌倉に帰ってからは、高時のあとをついで、十五代執権となった。また学芸文化に心ふかく、稀籌・珍器を愛し、文人兼好法師と交わるなど得宗一門の中でも、特色のある文化人であった。この時代がいちばん金沢氏が栄光に輝く時代で、文庫の内容もまた充実したときである。

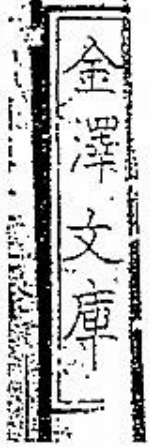
『新古今和歌集元亨奥書』

『西宮記』

『斉民要術』



『本草和名』



金沢氏と下河辺庄

下総国下河辺庄は、下総国葛飾郡から武蔵国東部にかけて設置された庄園で、平安末から鎌倉初頭にかけて鳥羽天皇第三皇女八条院の荘園であった。荘内には前林・河妻・赤岩・春日部・桜井の五郷及び平野村等が含まれていて、越谷周辺の荘園としては規模も大きく注目すべき庄園であった。

ここは平安末以来下総西部の豪族、下河辺氏が庄司を務め、治承四年(一一八〇)頼朝が武総地域を掌握した時、下河辺行平が勲功の賞としてもとの如く庄司職を安堵された。文治二年(一一八六)武蔵・下総等九ヵ国が頼朝の知行国となった時、頼朝は知行国内の乃貢(年貢)未済の庄々から注文を徴し、年貢進済の催促を行った注進状に「八条院御領武蔵国」とあり、また文治四年地頭沙汰に関する朝廷の返書に、公家所領の年貢未済地の一つとして武蔵太田庄と共に下河辺庄が八条院領にあげられているので、頼朝の知行国となった後も、八条院がそのまま本所となっていたことがわかる。下地管理は前同様下河辺行平が当っていた。ところが後に領有権は下河辺氏から金沢氏へと移ったのである。金沢氏の下河辺庄支配は、越谷の中世にとってきわめて興味深いことであるが、これについては称名寺文書を仔細に検討された舟越康寿氏の労作(「金沢称名寺々領の研究」(上・下)—中世中巻収録—『横浜市立大学紀要』No.9・10)に詳しいので、以下同氏の業蹟を参照して紹介すると次のとおりであった。

金沢氏は北条氏の一族で、幕府第二代執権の北条義時の子で、武蔵国六浦庄を領していた実義(のち実泰)の子孫が、居住地金沢を氏名に称したことによる。『金沢氏系図』では実泰が金沢を氏としたとあり、『北条系図』にはその子実時の条に「称名寺殿」または「金沢侍所」とあるが、金沢文庫所蔵文書の「貞顕自筆状断簡」から判断して貞顕の時より金沢氏を称したと考えられる。貞顕の時は金沢氏の隆盛時代で六波羅探題、連署を歴任、一時高時に代り執権となり、武蔵守にもなった。その子貞将も武蔵守に就任している。略系を示すと次のとおりである。

北条時政—義時—┬泰時—時氏—経時
　　└時頼—時宗—貞時—高時(得宗)

(称名寺殿)　(称名寺殿)　(越後守)　(号金沢　後羅大夫)　(武蔵守)
実泰—実時—実村—顕時—貞顕——貞将

金沢氏と下河辺庄との関係を示す最も古い史料は、次の文永十二年（一二七五）四月の実時譲状である。

信濃国大田荘大倉・石村両郷、下総国下河辺荘前林・河妻両郷並びに平野村

右件の所々、藤原氏に譲与する所なり、但し下河辺郷村等に於いては一期の後、総領に付すべきの状　件の如し

文永十二年四月廿七日　　越後守　平（実時）

右によれば、下河辺庄はこの時金沢氏の所領となっていて、実時が荘内の前林・河妻両郷（現埼玉県幸手町・五霞村）及び平野村（北葛飾郡幸手町平野カ）を、信濃国大田庄大石・石村両郷と共に藤原氏に譲り、下河辺庄の諸郷村については藤原氏死去後は総領に付すべしとあるから、その地頭職もしくは領家職は実時直系の当主に引継がれたことがわかる。道領を譲渡された藤原氏とは、実時の先妻の安達（藤廷の出）景盛の女（実村・顕時の母）といわれている。

下河辺庄内で前林・河妻両郷及び平野村に次いで見られる村々は「下河辺御庄下方内称名寺寺領村々」と称せられたもので、永仁元年（一二九三）の「実検目録」に見える。これによるとそれらの村々は称名寺領となっているが、下河辺庄は本来金沢氏領であるから、永仁元年以前に金沢氏から称名寺へ寄進されたものであろう。この文書の内容は領家代官による年貢の書上で、村内の現作田数は三五町四反小四〇歩、このうち除田となる小沙汰免（寺領沙汰人に対する給田）一反三〇〇歩を除き、定田は御佃三町五反九〇歩、所当田三一町七反小一〇歩となっていて、佃は所当田の約一〇分の一となっている。年貢所当額は段別四斗宛、計一五五石六斗五升三合三勺で米納だったことを示している。

この地を次の三人の名主がもっていた。

烏子兵衛三郎跡	二四町八反三〇歩
上野蔵人二郎跡	八町三反半二〇歩
片山入道跡	二町二反大五〇歩

三人はいずれも「何某跡」とあるから初給主の子孫と見られ、初給主は名前から察して金沢氏の家人だったのであろう。彼等はそれぞれ村単位で耕地を保有していたと思われ、その村々は永享十一年（一四三九）「上総国赤岩三箇村年貢米納解状」によると、後述の赤岩郷三ヵ村をさすと思われる。これに文安二年（一四四五）「上総国赤岩十四箇村年

貢銭勘定状」によると、別に一四ヵ村あったことが明らかなので、赤岩郷は全体で一七ヵ村から成っていた。そのうち前記の三ヵ村が永仁元年以前に称名寺領として寄進されたことになる。この三ヵ村とは応長元年(一三一一)「内河二郎太郎やすとう利銭借券」、貞和四年(一三四八)「赤岩外河年貢送状」から内河・外河上・下河下の三ヵ村とされている。この赤岩郷は、北高飾郡松伏町の古利根川と庄内古川にそった地域で、武州文書(天正十六年葉田助綱文書)によると、戦国期に赤岩新宿と呼ばれた宿駅ができており、市もたてられていた殷賑の地と伝えている。

新方郷　金沢氏が下総国下河辺庄内に持っていた所領は、前述の前林・河蔓両郷及び平野村と、赤岩郷一七ヵ村、それに下河辺庄其他六郷(新方・野方・佐々尾・志摩・大野・梁地)といわれている。このうち越谷と関係の深い新方郷が、金沢称名寺文書に初めて見えるのは、嘉元三年(一三〇五)「金沢瀬戸橋造営棟別銭注文案」である。これは貞顕の時、金沢瀬戸橋造営のためその費用を棟別銭として一門の所領に割当てた時の注文で、それには「河辺新方分、佰拾六貫伍百捌拾六文、『(米)百貫八百文』此内八百上(文カ)糧料」と見え、新方郷が金沢氏一門の所領となっていたことを示しており、また、「称名寺々用配分状」(年代未詳)によると、「河辺新方」は当主貞顕、金沢殿、入殿、山本殿によって分領されていた。金沢殿以下については、舟越氏は「貞顕に極めて近い女性で、金沢、山本、入という村に各々居住したので、かくよばれたのではあるまいか」と述べ、貞顕近親の女性であるとしている。

次いで新方郷について触れているのは嘉暦元年(一三二六)の「下総国新方検見帳」で、市域の恩間の地名が出てくることと、当時の荘地構造をよく示している点で貴重な史料である。煩をいとわず紹介すると次のとおりである。

(嘉暦元年)「新方検見帳　嘉暦元年」

(新方)にいかたのけんみちやう(検見帳)　十丁めん分　おまの分

四反卅分	まこ二郎	六反大	ちう大郎(以)已下同ク
四反六十分	しよう三郎	九反九十分	又大郎
五反	へい二郎	三反小	五郎四郎
		三反半	まこ三郎
		八反三十分	大矢六郎
		□反小	せんけう

合

四反六十分　いやとうし　□反七十分　にうえん
五反　くゑさう三郎　四反三百分　二郎大郎
已上四丁　分米八石　□□九十分　いや大郎
合二丁二反小卅分　一丁六反卅分そん　二反三百卅分　ゆいくわん
三石五斗一升六合　□反七十五分　いや三郎
分米四石四斗二升五合　□反大卅分　大夫大郎
おまの分　四反　六郎二郎
七反　六夫五郎　四反十分　まこ六郎
合　八丁四反小十五分　とくてん　□□分八丁一反十五分　十六石二斗四升一合　そん
以上　分米　十六石九斗六升二合　かりやくくわん年十月三日
そんの分田　六丁三反　そん十二石七斗□六五合　小四十五分　へい大郎　(花押)
已上十四丁七反三百分　分米廿九石五斗七升七合　ちやくわう(花押)
ちやうの米　合　二十一石四斗九升七合

右によると新方郷は十丁めん(十丁免)とおま(恩間)の二つの小村より構成されていた。ここには赤岩郷三ヵ村に見られた佃や除田は存在せず、散田もなく山野についても明かでない。十丁めんの場合を見ると所当田畑は四反三〇分から五反とほぼ均一に五人の名主に配分されている。これに対しおまは不均一で最高が九反九〇分、最低が二反三三〇分、その間八反余・七反・六反・四反・三反台と区々で名主も一五名である。両村とも小農経営の多いのが目立つ。年貢の斗代は、田積と分米から二斗代とわかり、十丁めんとおまの合計田積は一八丁七反三分、年貢高は三七石七斗一升であったが、この年は損田が八丁一反一五歩に達し、実際の得田収入は二一石四斗七升七合であった。このほかに雑公事として麻・菜・薦、その他を納入した。作物は「教智房田畑注文」(元徳三年)によると、種籾は早稲と中稲を蒔き、屋敷には芋や豆を作っていた。

正慶元年（一三三二）二月に三っで下河辺庄赤岩郷の村々は、貞将の三により信濃国石村郷・武蔵国六浦庄富田郷と共に称名寺へ不輸の地として寄進された。時恰かも世情不安の時で、遂には元弘の乱が起り、鎌倉幕府や北条氏の命運も旦夕に迫っていた時であった。この時、貞将が寄進した土地の外、父祖三代にわたる寄進地も寺家の管理とした。こうして赤岩郷の地は、総て称名寺領となったのであるが、新方郷も貞治二年（一三六三）の「称名寺々領年貢米納帳」にその名が見えるので、赤岩郷と相前後した時期に称名寺領として寄進されたものと思われる。

かねざわし　金沢氏　北条氏の一支流。北条義時の子、実泰（弘長三年（一二六三）没）を始祖とする。実泰は武蔵国六浦荘（横浜市金沢区）を父より譲られたが、その子実時が正嘉のころ、この荘に別業を設けた。

実時およびその子孫、顕時・貞顕・貞将らはいずれもここに住して、金沢氏を称し、別業内に称名寺を建て、また境内に文庫を設けて和漢の典籍を収めた。

金沢氏は元弘三年（一三三三）北条氏滅亡とともに滅んだ。

かねざわさねとき　金沢実時　一二二四―七六　鎌倉中期の武将。越後守、称名寺殿、金沢侍所などとよばれた。引付衆、評定衆など幕府の要職を歴任し、文永元年（一二六四）には強訴奉行に任じられた。

建治元年（一二七五）五月、病のため職を辞し、金沢の自邸にこもり、翌二年、ここに没した。

政治のかたわら、広範な分野の学問にも深い関心をもち、京都より諸家の蔵書を借覧して書写学習につとめて晩年に及んだ。三十年にわたるこの学問的努力の結実他る膨大な蔵書の佚亡をおそれて実時はこれを金沢の自邸に保管した。

すなわち、金沢の地には以前から邸があり、正嘉二年（一二五八）阿弥陀堂をここに建て、称名てら称し、境内にその文庫を営んだ。すなわち金沢文庫の起源である。

かねざわあきとき　金沢顕時　一二四八―一三〇一

鎌倉時代の武将。越後入道と称し、赤橋殿とよばれた。評定衆、引付頭などを歴任したが、弘安八年十一月、安達泰盛が執権北条貞時に滅ぼされたとき（霜月騒動）、顕時は泰盛の婿であった関係から所領であった下総国埴生荘に流された。その後、出家したか召しかえされたらしい。正安三年、五十四才で没した。父と同様、学問・信仰への関心が深く、その書写・伝習した漢籍が金沢文庫などに現存している。

かねざわさだあき　金沢貞顕　一二七八―一三三三

鎌倉時代末期の執権。早くから幕府の要職を歴任し、六波羅探題として十年以上も京都に滞在した。

嘉暦元年（一三二六）、高時が病のため出家し執権を辞するや、その後任として十五代執権となった。

元弘三年（一三三三）五月の新田義貞の鎌倉攻撃に際し、高時とともに鎌倉東勝寺に自尽した。その子貞将も戦死している。

幕府の重要人物として時局の打開に苦心しつつ、なお、学問・信仰の面において、特に注目すべき事蹟や業績が多い。仮名文、女性の文学の写本にも手を染めており、その達筆とともに教養の広さが示されている。

児玉　清

金沢貞顕

尊氏の父・貞氏の義兄。幕府の要職につくが、実権は長崎円喜らに奪われる。温厚な性格で、北条氏と対立して窮地に陥る貞氏を陰で支える。高時が病で倒れた後に執権になるが、高時の弟・泰家の反対にあい、命を狙われ、わずか一〇日で辞任。幕府滅亡とともに鎌倉で自刃する。

北条氏略系譜

執権第一代
北条時政
- 政子（将軍頼朝室）
- 第二代 義時
  - 第三代 泰時 ― 時氏
    - 第四代 経時
      - 時頼（第五代）
        - 時宗（第八代） ― 貞時（第九代） ― 高時（第十四代）
          - 邦時
            - 時行
        - 宗政
          - 師時（第十代）
      - 時輔
  - 朝時（名越氏）
  - 重時（赤橋氏）
    - 長時（第六代） ― 義宗 ― 久時 ― 守時（第十六代）
    - 業時 ― 時兼 ― 基時（第十二代）
  - 第七代 政村（金沢氏） ― 時村 ― 為時 ― 淵時（第十三代）
  - 実泰（金沢） ― 実時（金沢文庫 称名寺 創立者） ― 実村
    - 篤時
    - 顕時（楚鐘再鋳者）
      - 顕弁（岡城寺長吏 鶴岡八幡宮社務職）
      - 顕雄
      - 顕実
      - 第十五代 貞顕（足利貞氏妻）
        - 顕助
        - 貞助
        - 貞将（六波羅探題）
          - 淳時
          - 忠時
        - 貞匡
        - 貞冬
    - 実政（鎮西探題 同上） ― 政顕 ― 種時
- 時房（大仏氏）
  - 時盛
  - 朝直 ― 宣時 ― 第十一代 宗宣 ― 宗泰 ― 貞直

片岡鶴太郎

北条高時

一四歳で鎌倉幕府の執権となるが、幼少ゆえに妻の父・秋田時頼や長崎高資らに政治を掌握された。幕政の腐敗が進む中、高時は日夜遊興に耽り、「ウツケ」と呼ばれた。最後には、新田義貞に鎌倉を攻められ、高時は東勝寺で自害。源頼朝以来、一四一年続いた鎌倉幕府は滅亡する。

勝野洋

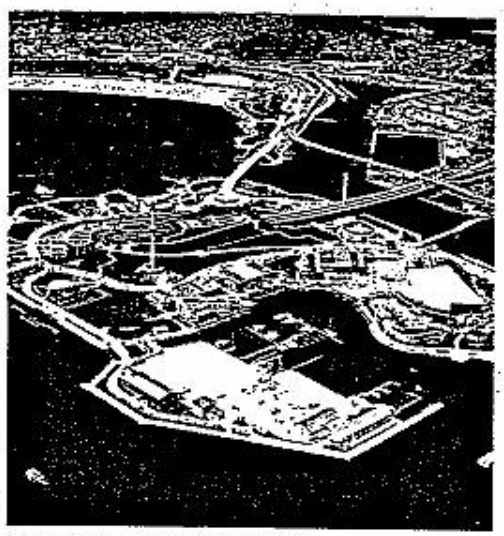
赤橋守時

鎌倉幕府最後の執権。登子の兄。金沢貞顕の跡をついで執権となるが、実権は得宗の北条高時が握り、力を発揮できない。妹婿の高氏が倒幕の兵を挙げ、苦境に立たされる。新田義貞が鎌倉を包囲すると、高時などから疑われるのを嫌い、自ら先頭にたって戦い、激闘の果てに自刃する。

横浜・八景島シーパラダイス

まるごと海のテーマパーク

遊園地に水族館、レストランと盛りだくさんの八景島は、1日遊んでも飽きない海の楽園。入島無料だから、島内の散策や食事、ショッピングだけでもOKという楽しみ方自由自在の遊び島だ。Ⓜ P108・C4

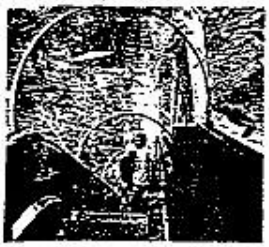


↑恋する遊び島でおなじみの八景島

見る

アクアミュージアム

6つのゾーンに分かれた大水族館とアクアシアター、アクアスタジアムからなる八景島の中心施設。メインとなるのは、500種10万匹の生物を飼育・展示する水族館。大水槽の中を泳ぎ回る魚たちを、全長20mの水中エスカレーターから眺めるアクアチューブなど、アトラクション感覚で海の生物を観察できる。ホッキョクグマの水槽展示は迫力満点。ラッコがエサを食べる様子が見られる時間も要チェック。2450円。10～21時、土・日・祝日は9～21時、季節によって異なる。



↑アクアチューブ

●アクアシアター　アクアミュージアムの最上階にある、直径15mの大型ドームを備えた映画館。CG映像をふんだんに盛り込み、観客の視野をフルにカバーする巨大な全天周映像は臨場感いっぱい。オリジナル作品「ミッシングアイランド―幻の島を追え（小学生無料）」を上映。約15分間、1日20回（冬期は16回）。500円。

●アクアスタジアム　イルカやアシカのショーが行われる水族館の隣のスタジアム。トレーナーと一体となったイルカのスピーディーなショーや、アシカのコミカルな演技、トドのダイナミックな飛び込みなど、海の動物の豊富なパフォーマンスが楽しみ。ショーは約40分、1日5～6回。料金はアクアミュージアムの入館料に含まれる。

↑多彩なショーが楽しめる

遊ぶ

フィーディングプール

イルカやアザラシなどの海の動物に直接エサを与えることのできるプール。エサは1杯300円で魚3匹。エサの数には限りがあるので、フィーディングタイムをチェックして早めに行ったほうがいい。自分が手に持っているエサを、目の前で食べてくれるので、大人も子供も大喜びだ。アクアスタジアム横にある。

プレジャーランド

迫力満点の絶叫マシーンから、ロマンチックな乗り物まで、12種類の体感マシーンを揃える敬老割のレジャーランド。料金は乗り物によって異なる。3300円分の乗り物回数券として利用できる3000円のプレイチケット3など、お得

↑時間をチェックしておこう

↑迫力あるサーフコースター

●サーフコースター　スリル満点の海に突き出たジェットコースター。はるか下に水面を望む位置から、一気に降下、その後、変化に富んだコースを疾走する人気のマシーン。1000円。

●シーパラダイスタワー　ドーナッツ型のキャビンが回転しながら地上90mまで上がる。360度広がるパノラミックビューが最高だ。600円。

●アクアライド　チューブ型ライドに乗って激流を下るダイナミックなアトラクション。水しぶきを上げながら回転、激流を乗り越す。800円。

↑爽快なアクアライド

●メリーゴーラウンド　床から馬車、天井まで木で作られたメリーゴーラウンド。アメリカの古き良き時代のものを再現。500円。

カーニバルハウス

海中をイメージしたドーム型のハイテク・ミニ遊園地で、4つのゾーンで構成されている。一番人気は宇宙パイロットのシュミレーションマシーンやCG映像のゴーストと闘うゴーストバイレーツなど、バーチャルリアリティーが体験できるハイテク体感ゾーン。家族向けの小型ゲームが揃ったファミリーゾーンやスポーツゾーンなどもある。10～22時、土・日・祝日は10時～20時30分、季節によって異なる。

↑最新のゲームが揃う

106

横浜市の市外局番＝045

パラダイスクルーズ

海からシーパラダイスを眺められる遊覧船。八景島さん橋から西浜さん橋までの約2・5㎞を、15分ほどでゆったりと巡る。19世紀にアメリカのミシシッピ川で活躍したリバーボートを模した船で、潮風を感じながらのミニクルージングを楽しめる。1日16便が就航。500円。ほかに夕方に出航するサンセット・クルージング2000円もある。10～20時、季節によって異なる。

↑眺めもいいレストラン

食べる

洋 レストランカーム

マリーナロッジの2階にある82席のレストラン。大きな窓からマリーナやアクアミュージアムを眺めながら、ゆったりと食事を楽しめる。1～2か月ごとに変わるメニューは、季節ごとの旬の素材を使った料理が好評。ランチコース1200円～など。7～10時、11～16時、17～21時。マリーナロッジ2F。

洋 ローズベイハウス

12店舗の飲食店が集まるレストランプラザの2階にある、アメリカンスタイルのシーフードの店。鉄板と帆立貝のボウル2色ソース添え1800円はじめ、料理はどれもボリューム満点。オリジナルのコズドレッシングがおいしいサラダやマリネ、ビラフなどのシーフードが食べ放題というシーフードサラダバイキング2200円も好評。11～22時。レストランプラザ2F。

名 福寿（ふくじゅ）

広い店内に142席を備えた、焼肉・韓国料理のレストラン。18種類の具を使う人気の石焼ビビンバ1500円は、キムチ、スープ付き。秘伝のタレを使ったボリュームたっぷりの焼肉も好評で、1780円で食べ放題が楽しめる。カルビクッパ900円などもおすすめ。11～22時。レストランプラザ2F。

地 トロピカル インパーマーストーン

店内を飾る巨船と竹が、トロピカルムード満点の海上レストラン。新鮮な地魚を使ったポリネシアン料理を堪能させてくれる。シーフードミックスサラダ1550円や、大エビのブツ切りカレー1400円がおすすめ。豊富な種類のマールエビのブツ切りと野菜の三色炒め3300円もぜひ味わってみたい。11～22時。レストランプラザ1F。

買う

メトロポリタン アートギャラリー

13のショップが集まるオープンモールの1階にある、マリンアートグッズの店。イルカやクジラをモチーフにしたオブジェや絵画、装飾品が並び、眺めているだけでも楽しくなってくる。ピアグラス2600円やエジプト香水ビン2200円～なども。10～20時。オープンモール1F。

ローカルモーション ショップ

マリンファッションの店。Tシャツは3500円。八景島でしか買えないオリジナルトレーナ15200円も、ネイビーなど3色のバリエーションがあり人気が高い。サーフボードも種類豊富に扱っていて、ボディボードが4万円前後。10～20時。オープンモール1F。

フレッシュルース

シーパラダイスのオリジナルウエアを扱っているのがこのショップ。人気はオリジナルTシャツ3900円、ショルダーバッグ3600円など。1デザインにつき7～8色のバリエーションがあるのがうれしい。エコロジカルランドホテル

↑13の個性派ショップが集まるオープンモール

泊まる

マリーナロッジ

ヨット利用者のためのオフィシャルロッジとしてスタートした宿泊施設で、現在は一般客の利用もOK。館内にはバーやオフィスや貸ロッカーなどを備え、ヨットマン気分で宿泊できる。全室オーシャンビューとなる3階の客室は、ツインルーム3室、ファミリールーム20室。2階にレストラン「カーム」がある。1泊朝食付き8000円～。

交通

横浜駅・京浜急行本線特急で20分、金沢八景駅・シーサイドラインで8分、八景島駅下車。または、横浜駅→JR根岸線で18分、新杉田駅・シーサイドラインで18分、八景島駅下車。みなとみらい21ふかり桟橋からは、パラダイスラインで50分。

横浜・八景島シーパラダイス 8時30分～22時30分、日・祝日は9時～（冬期変更あり）。㊡冬期不定。横浜市金沢区八景島。☎788・8888。P4800台。

関・係・略・年・表

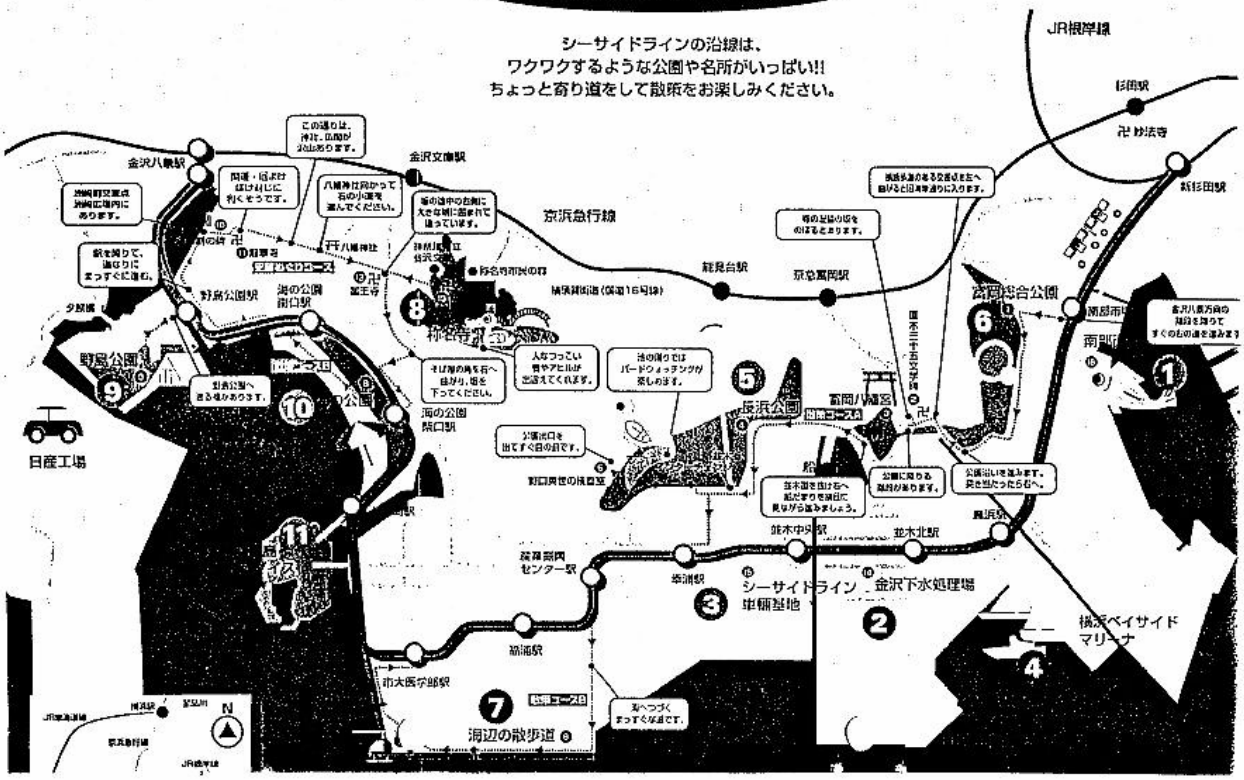
１１４７	（久安　３）	源頼朝生まれる
１１８０	（治承　４）	源頼朝挙兵、鎌倉へ入る
１１９２	（建久　３）	源頼朝、征夷大将軍に。鎌倉幕府を開く
１１９９	（正治　１）	源頼朝死す
１２１９	（承久　１）	源実朝暗殺　公暁も死す
１２２４	（元仁　１）	金沢実時生まれる
１２４８	（宝治　２）	金沢顕時生まれる
１２４９	（建長　１）	越谷の建長板碑（御殿町）
１２５８	（正嘉　２）	実時、阿弥陀堂を建てる（称名寺 〃）
１２７５	（文永１２）	実時、下河辺庄を藤原氏に譲る
１２７６	（建治　２）	実時死す
１２７８	（弘安　１）	金沢貞顕生まれる
１２８５	（弘安　８）	北条貞時、安達泰盛を滅ぼす（霜月騒動）
１３０１	（正安　３）	顕時死す
１３０５	（嘉元　３）	金沢瀬戸橋造営棟別銭注文案
１３２６	（嘉暦　１）	貞顕、１５代執権となる
		下総国新方検見帳
１３３３	（元弘　３）	貞顕、北条高時とともに鎌倉東勝寺にて自尽
１３６３	（貞治　２）	称名寺々領年貢米納帳

参考図書

☆称名寺庭園　６２．１０　横浜市教育委員会
☆国史大辞典　５８．２　吉川弘文館
☆越谷市史　１　通史上　５０．３　越谷市
☆ＪＴＢの旅ノート③　横浜　９７．６　ＪＴＢ

SEASIDE LINE

RAILROAD LINE ILLUSTRATED MAP

シーサイドライン沿線イラストマップ

シーサイドラインの沿線は、
ワクワクするような公園や名所がいっぱい!!
ちょっと寄り道をして散策をお楽しみください。